

つどいの広場研修事業「子育てひろば研修セミナー」〈釧路開催〉報告

【テーマ】

『北海道、どこに住んでも安心して子育てするために～つなく、つながる、子育ての輪』

【終了のごあいさつ】

さわやかな北海道の秋空のもと、釧路市において「子育てひろば研修セミナー」が開催されました。これまで札幌で開催してきたセミナーが初めての地方開催ということで、いろいろな不安もありましたが、112名の参加者のもと、内容が凝縮した盛りだくさんのプログラムを無事終了することができました。広大な北海道では遠方からの参加者も多くみられ、熱気あふれる報告やディスカッションなどが各会場で繰り広げられました。まだまだ北海道ではなじみが少ない子育てひろば事業について深く学ぶとともに、子育てひろばが持つ子育て・子育て支援の原点を共有する貴重な機会となりました。連休の中日に参加をしてくださった方々、そして準備を含めまして協力してくださったみなさま、本当にありがとうございました。

- 開催日：平成19年9月23日（日） 10：00～17：00
- 会場：釧路市生涯学習センター まなぼっと幣舞（釧路市幣舞町4-28）
- 主催：財団法人こども未来財団
- 共催：NPO法人子育てひろば全国連絡協議会
- 協力：つどいの広場研修事業「子育てひろば研修セミナー」〈釧路開催〉実行委員会
北海道おもちゃライブラリー連絡協議会・NPO法人地域生活支援ネットワーク
- 後援：厚生労働省・（社福）全国社会福祉協議会・北海道・釧路市

【参加者数】 112名

（行政25名 NPO・任意団体61名 その他団体・企業17名 その他9名）

【プログラム趣旨】

北海道では、つどいの広場17か所・子育て支援センター191か所が開設・運営されています。セミナーでは広い北海道の特徴をふまえて、今後、子育てひろばが道内各地で地域子育て支援拠点事業と連動しながら広がっていくことを意識して、そのために必要不可欠な地域の知恵や協力を引き出せるよう、先行的で多様な子育てひろばの実践について学び合う内容を軸に全体を組み立てています。また、支援のネットワークが広がるための出会いの場としての分科会を設けました。プログラムを通して地域の子育て支援の可能性を参加者とともに探りたいと思います。

【当日の様子】

☆ 挨拶

●主催者挨拶 財団法人こども未来財団

岡林 一枝さん



●実行委員会挨拶 実行委員長 瀧 文枝さん

☆ プログラム1 基調講演

「地域子育て支援拠点事業の概要と展望」

厚生労働省 少子化対策企画室

室長 朝川 知昭さん

9月に少子化対策企画室長に就任されたばかりの朝川さんより、「少子化の背景」「子育て支援拠点事業の説明」「これからの子育て支援施策の方向性」「地域子育て支援の課題」についてデータを示しながら、詳しいお話がありました。



☆ プログラム2 視察報告 報告！カナダの子育て支援2006

むくどりホーム ふれあいの会 柴川 明子さん

柴川さんが昨年1年間、自らの活動を休んでカナダの子育て支援を学びに行った経験を報告していただきました。

きめ細やかで当事者の発想に基づいたカナダの実践はこれからの日本、北海道の子育て支援を考える上でも非常に参考になりました。



10年以上前から自宅を開放して地域の方たちとともに自主的な子育てひろばを実践している柴川さんは北海道において子育てひろば実践の草分け的な存在です。

柴川さんのお話を熱心に聴く参加者。柴川さんの理念の高さと向上心、熱意に圧倒されました。

☆ プログラム3 シンポジウム 子育てひろばの意義と可能性～北海道のひろばを考える

コーディネーター

新澤拓治さん（江東区大島子ども家庭支援センター「みずべ」センター長）

シンポジスト

奥山千鶴子さん（NPO 法人びーのびーの理事長）

山田智子さん（NPO 法人子育て応援かざぐるま代表理事）

明神もと子さん（北海道教育大学名誉教授）

朝川智明さん（厚生労働省少子化対策企画室室長）

広域な北海道ではまだまだ子育て支援には地域差があり、イメージもつきにくい状況もあることから、先駆的な実践や客観的な状況把握をすることをねらいとしたプログラムでした。

北海道の子育てひろばや子育て支援についていろいろな角度から再認識するとともに、たくさんの示唆や勇気をもらいました。



お母さんたちの活動の代表ともいえる「びーのびーの」の実践を報告する奥山さん。会場はすっかりお母さんパワーでいっぱいです



自らの実践に加えて、北海道のひろば事業の概要を訪問しながらまとめてくださった山田さん
まとめた情報は資料集に盛り込まれ、大変好評でした。



教育大学の学生さんたちの実践と近頃の子育て事情について話す明神さん



短い時間の質疑になりましたが、熱心な参加者から質問や意見も飛び出しました。

☆ プログラム4 分科会

行政・運営担当者向け、一般・支援者向け、スタッフ向け、一般・教育機関・学生向けと4つのテーマを設けた分科会を開催しました。どの会場も参加者と一緒に議論や意見交換が活発に行われました。

◆分科会①（行政・運営担当者向け）「みんなでつくろう！子育てひろばを我まちに」

コーディネーター：奥山千鶴子（NPO 法人びーのびーの理事長）

話題提供者

中谷通恵さん（白老町子育てふれあいセンター「すくすく広場」：NPO 法人お助けネット代表）

国忠勝子さん（土別市つどいの広場「きら」：子育てサポートむっくり代表）

石崎健治さん（岩見沢市健康福祉部福祉課長）



分科会1では子育て支援拠点事業を広げていくために先駆的な実践を学びました。

お母さんたちのNPO活動から始まった白老、子育てアンケート実施から保育サポーター養成を経てひろばにつながった土別、主任児童委員の活動を行政がサポートし常設広場をつくった岩見沢とまちの規模も成り立ちも違いましたが、必要性を語る理念にはたくさん共通点がありました。

[参加者の意見・感想]

- 行政もNPOもお互いの弱みをさらけだし、強みを認めあうことで真の連携が可能となるのでは
- 行政にとっても市民にとっても生きた子育て支援を実現するためには人材養成や研修が不可欠
- 子育てひろばは日常的な支援の場として非常に重要。お母さんたちの信頼や期待も高まっている
- NPOなどの市民団体はお母さんたちを代弁する役割がある

また、参加者同士の出会いや交流を通してセミナーそのものが協働・連携の第一歩につながった、いい研修機会になった、保育園の先生からは自分たちの仕事の励みになったという意見もでていました。

◆分科会②（一般・支援者向け）「今後の可能性を探ろう！多様な独自型ひろば」

コーディネーター：日置 真世さん（NPO 法人地域生活支援ネットワークサロン事務局代表）

話題提供者

瀧文枝さん（釧路市子育てカフェ「えびろんおばさんの店」：NPO 法人地域生活ネットワーク）

柴川明子さん（札幌市「むくどりホーム」：むくどりホームふれあいの会代表）

藤原市子さん（石狩市つどいの広場「りとるきっず」：NPO 法人こども・まち・つながり・いしかり理事長）

北海道では子育て支援拠点事業の実践はまだ少ないですが、独自の子育てひろばの実践が数多くみられます。分科会2ではそうした地域の必要性に基づいて独自にひろばを始めた実践者から、それぞれに熱い思いのこもった報告をいただき、制度活用や行政との連携について考えました。

[参加者からの意見・論点]

- 行政との協力・連携には困難な面もあるが、お互いに工夫はできる
- 地域やお母さんにとって本当に必要な支援を継続していくことは大切だが大変だ
- さまざまな事情を抱え子育て困難な状況にある親子を地域でどう支えていくかが次の課題



◆分科会③（スタッフ向け）「本音で語り合おう！スタッフフォーラム」

コーディネーター：新澤拓治さん（江東区大島子ども家庭支援センター「みずべ」センター長）

話題提供・グループリーダー

黒崎睦子さん（釧路市親子つどいの広場昭和）

小田嶋法子さん（釧路市おもちゃライブラリー）

松実とよ実さん（子育てコミュニケーションスペース「る・る・る」：中標津）

宮川まさこさん（NPO 法人子育て応援かざぐるま）

助言者：相場幸子さん（母子相談室みみずく主宰）



20代から70代まで、立場も行政職員からボランティアまで幅広い参加者が10名程度ずつ4グループに分かれて話をしました。グループリーダーが突破口を開く間もなく、各グループとも話題があふれ出して、「もっと話がしたかった」という声が多く聞かれました。

[話題になったこと]

- マナーの悪い利用者に対する対応
- 仲良しグループができて他を寄せ付けない場合や理解しがたい子育て感覚の親へどう関わるか？

- スタッフ不足、スタッフのスキルアップなどスタッフの質量ともに向上するためには
- 病院や母子センターなど関係機関との連携の重要性を痛感
- 発達障害のお子さんを認めたくないお母さんへの対応が難しい、うまく伝える方法は？ など

◆分科会④（一般・教育機関・学生向け）

「ひろばで育てよう！次世代の親そして子育て支援者を」

コーディネーター：明神もと子さん（北海道教育大学名誉教授）

話題提供者・豊島節子さん（釧路専門学校子育て支援ルームフレンドクラブ）

・加藤朋恵さん（函館医療保育専門学校つどいの広場）

・山田智子さん（札幌大谷大学短期大学部子育て支援センターつどいの広場「んぐまーま」）

分科会4では各地で取り組みが始まった短大や専門学校での子育てひろばをテーマに、3名の実践者から報告がありました。学校独自に試行錯誤で実施している釧路、平成17年の本セミナーに参加した市職員が学校に働きかけた函館、短大とNPOの連携の札幌とそれぞれですが、学生さんと親子そして運営する自分たちとの接点の意義を大切にしたい思いが伝わってきました。

[参加者からの意見・論点]

- 学校のひろばは高齢者の参画などによって地域の活動として発展させる可能性があるのではないか
- 北海道は圧倒的に過疎地で小規模の町村が多い。その中でひろばの運営は課題がたくさんある
- まちの大きさには関係なく人と人とのふれあい、つながりが大切だということを実感した



☆ プログラム5 全体会「分科会内容報告および総括」

コーディネーター：奥山千鶴子さん（NPO 法人びーのびーの理事長）
総括：相場幸子さん（母子相談室みみずく主宰）
明神もと子さん（北海道教育大学名誉教授）

それぞれの分科会の報告ののち、総括の相場さん、明神さんから子育てひろばを含めたこれからの地域における子育て支援に向けてメッセージとアドバイス、激励をいただきました。全体を理論的になおかつ展望をもって締めくくる素晴らしい場となりました。



お二人のお話を奥山さんが上手に引き出してくれました



心理学と教育学の立場から鋭く明快にセミナーを締めくくってくださった相場先生と明神先生 北海道の人材の豊かさを再認識しました。

相場さんの総括(心理学の立場から)

- お母さんたちは「アドバイス」を求めている。求めているのは「よく話を聴いてくれること」
- どんなお母さんでも頑張っているところを見つけてほしい
- 虐待をするようなお母さんたちにも、必ずその人なりの理由がある。その理由を「教えてください」と一緒に探す姿勢で寄り添うことで、心を開いて話をしてくれる
- とにかく、子育て中のお母さんたちをほめて、認める言葉かけや支援を大事にしてほしい

明神さんの総括(教育学の立場から)

- 子育てではお父さんの存在が重要。ひろばに来る人を「お母さん」に限定せず「親」としてとらえるなど、お父さんも参加しやすい工夫が必要
- こうしたセミナーを地域レベルで小規模でも継続して実施してはどうか。実践者にとっての学びあいの場が地域にあることは大変心強い。
- これからの子育て支援は保育や教育といった子どもを育む専門分野とは異なり、社会学的な広い視点に立った家庭支援であり、新しい専門性を追求し学問的にも確立が必要となってくる。
- これからの子育てひろばづくりは、まちをどう考え、どうつくっていくのかまさに「まちづくり」につながる事業として役割が大きく、可能性もたくさんある。各地域の取り組みに期待したい。